たたかいのなかから

〈投稿歓迎〉

このページは各地の運動、闘争報告、論争、本紙への批判を含む雑感など、読者のページとしておい使い下さい。投稿を大歓迎します。匿名希望の方は、その旨はっきり明記するか、あらかじめペンネームでお寄せ下さい。特別の場合を除いて原稿は極力短く（五〇〇字前後）お願いします。できるだけ全文を掲載しますが、紙面の都合上カットせざるを得ない場合もあります。あらかじめ御了解下さい。

〈「闘いの中から」係〉

デッチあげ張本人が無断欠席

神奈川　前田文弘

暦のうえでは「節分」をすぎましたが寒い日が続いております。皆々様方にはお変りなくおはげみのことと存じあげます。

九年まえより反対しております、日本鋼管の扇島埋立（約三、〇〇〇メートル×二、〇〇〇メートル）に反対する漁師の私に、彼らは権力と暴力団を使って私の抹殺をはかってきましたが、公害と差別に反対する多くの皆様方の温かいご支援をいただきまして心よりお礼申しあげます。

二月六日、第二回の公判では、日本鋼管の下請重役を、こちら側で尋問糾弾する予定の裁判に、デッチ上げの張本人が無断欠席しました。法廷をうずめた仲間の糾弾に裁判長は、次回も「欠席」すれば「拘引」すると発言せざるを得ないところまでいまいました。楽観は禁物ですが今後ともよろしくお願い申し上げます。

なお昨日、ご多忙のなかを、ご支援に参加された多くの方々に紙上をおかりしてあつく御礼申し上げます。

◎（傍聴券発行のため、毎回時間厳守になっております。）

次回の公判は四月二十三日（金）午後一時、川崎地裁です。

一人が百歩より百人が一歩

愛知　榊弘

我々、新左翼運動に対して「渦巻き本流になれ」とさる左翼雑誌に書かれていた事があった。確かに、我々の運動は常に自己回転し、自己満足する渦巻き運動であった。広範な人民と共に歩み、人民の生活、活動に基盤を置く事によって闘うのでなく、自分の心情によって闘ってきた。

そして「同盟はダメだとか総評が何だとか、〇〇組織は右翼的だ」と言ってきた。その中で生活し活動している大衆に眼を向けるのでなく、上部のアグラをかいた幹部にのみ眼を向け、彼らを批判する事によって、ただ己れとのちがいを主張していたにすぎなかった。

―◇―

所がどうだ、今までハネ上り組合とレッテルをはられたある労組のニュースに「一人が百歩進む事より、百人が一歩進む事が大切だ」と書かれてあった。これは大変だ！これこそ革命的ではないか。今まで「すべての労働運動を左傾化させる」と主張してきた組合が「結婚相談所」をもうけたのだ！

―◇―

「大衆の生活に心を向けよ」と毛沢東はわれわれに教えた。この事は、我々の自己満足的な渦巻き型運動から、連続的な本流型の運動になるための思想を語っている。

―◇―

「ぼくにはこれしかできない」と自分を決めこみ、大衆と関係をもとうとする人々は、その本流の流れがゆるやかな時は別にしても、本流が激流に化した時には、そのメッキをはがされてしまうだろう。また「おれについてこい」と大衆ののうまを小バカにし指導者顔をし、スローガンや行動の戦闘性で左翼を主張する人々は、この大河の中で大きな障害に出合うだろう。要するに、我々は、今まで、自分に情勢を合わす事もまた自分のとおり大衆を動かす事もできなかった。またできると思った所に、渦巻き型の運動があった。

全国各地で闘う仲間！大衆の生活に心を向けよう！大衆こそが歴史を動かす力をもつ事を再度、今までの歴史から学ぼう！

再度、この基本綱領を送る！

三里塚の闘う農民へ

日本赤軍

三里塚の闘う農民のみなさん！日本の人民・同志友人のみなさん！

アラブ・パレスチナ戦場より、共に不屈に闘う意志をこめて、固い団結の声明をおくります。どんなに遠くにあっても闘う心は一つです。三里塚十三年の闘いの歴史は、わたしたちを闘いにひき入れ、鍛えていった歴史です。

わたしたちはその闘いから、ともに土地と生活を守り、人間として闘い抜く強靭さと豊かさを学んできました。とうちゃんもかあちゃんも、ばあちゃんもじいちゃんも、子も孫も嫁もみなともに生き、ともに闘うなかに本当の生きいきした人間的生活があることを学んできました。

それは闘いのなかで、最もかけがえのないものです。その人間的生活をふみにじっているものこそ帝国主義のブタどもです。

帝国主義のブタどもよ！お前たちの暴虐非道の開港策動の裏には、高度成長の夢を追い、アメリカ帝国主義の圧力をうけて、七パーセント経済成長率をがむしゃらに実現しようとする醜い野望があることをわたしたちは知っている。お前たちは人民の経済建設の基礎たる農業を更に破壊し、農民を虫けらのように切りすてできたし、更にあくどくやろうとしている。

農民が人間として、土地を耕やし、都市の労働者人民に穀物・野菜・果物を供給し、支えあい、共に生きることを否定し、ブタどもの自己本位の「開発」によって自然を破壊し、人間を破壊している。

三里塚のみならず、土地を追われた農民はどうなったか。だれのための土地か、だれのための空港か。

しかし、お前たちは開港を強行するなかで巨大な墓地を作っているのだ。お前たちが三里塚に力をつぎこめばつぎ込むほど、お前たちの力は奪われた。

いま帝国主義のブタどもの土地破壊、強奪の開港強行に対して、非妥協に闘う中にしか、人間として共に生きる途はありません。パレスチナの人民も同じ闘いをやってきました。土地収用法で次つぎと人民は暴力的に土地を追われ、その土地はシオニストギャングの軍事基地・植民村になっています。パレスチナの闘いとは土地と人間の生活を奪い返す非妥協の闘いです。それはパレスチナだけではなく、エリトリアでもオーマンでも、世界中どこでも同じ闘いをやっています。解放をかちとった人民はもちろん、いま解放にむけて闘っている人民、世界の人民が、三里塚の闘いを支持支援しています。自力更生の闘いのなかから更に世界の闘う人民との団結を築くことが問われています。

日本赤軍は三里塚に結集した闘う仲間たちとあらゆる場で一体となって闘い抜いています。

闘う人民の創造力は無限です。あらゆる戦術をもって敵を痛めつけ、執念深く、着実に奴らの土台をうちこわし、奴らの手足をもぎとっていこう。

一人の人間のように、みなが団結すれば必ず勝つ。

団結は解放。

団結！必勝！がんばろう!!

一九七八年三月三日

闘争便り

国賠裁判資料を押収

二月二十七日午前七時四十五分頃、警察は事務所にはいり、立会人なしで家宅捜索を行った。押収内容は、会員住所録、会計簿等。事務所の他に十七カ所にわたり、千点以上もの物が押収されました。その中には、日記、ビラから公判資料（公判に関するテープ、文書等）、会の公判支援活動そのものを妨害する資料がほとんど押収されました。このような不当家宅捜索は、国賠公判つぶしそのものではないでしょうか！

みなさん、検察庁に抗議電報

集会案内

北部六争議団勝利！3・21北部共闘春季総決起集会

3月21日（火）

午後1時～、全体集会

板橋産業連合会館（東武東上線大山駅下車）

午後5時～、分科会

三和産業（東武東上線大山駅下車）

全体集会／映画「上組闘争の記録」、基調報告、連帯あいさつ（全金本山支部、日本カーバイド労組ほか）、決意表明（各争議団ほか）

第一分科会「基調」、第二分科会刑法・反弾圧闘争、第三分科会日韓連帯と労働者、第四分科会労災・職業病闘争、第五分科会臨パ・下請労働者、第六分科会未組織労働者の組織化

主催／北部労働者共同闘争会議、東京都練馬区東大泉町一〇三四、東映第一オープン内、東映製作所労組気付、電話〇三―九二二―一九三〇、〇四八四―七九―六三〇六

3・23総力戦突入全関西総決起集会

3月22日（木）午後5時半

大阪・東淀川区民ホール（阪急淡路駅下車）

〈あいさつ〉三里塚芝山連合空港反対同盟、たたかう国鉄労働者ほか

主催／三里塚決戦勝利百万人動員全関西実行委員会

反原発市民講座

3月29日（水）午後6時半～

原発PRはどう仕組まれているか――原発仕掛人たち批判――

・吉田ともや

4月12日（木）午後6時半～

原子力行政の実態はあばかれた――伊方訴訟判決を前にして――

・藤田弁護士

場所はいずれも大阪・森の宮・労働金庫本店会議室

主催／原子力はごめんだ！関西連絡会、大阪市北区中崎西一―六―三六、サクラビル新館三〇八、日消連関西グループ気付

一九七八年教育闘争交流横浜集会

4月1日（土）正午～2日（日）午後3時

横浜・開港記念会館（国電根岸線関内駅下車、徒歩5分、電話二〇一―〇七〇八）

参加費千円（当日払い）

宿泊三千七百円（素泊り当日払い）ホテル港湾館（〇四五―二〇一―二九〇）

連絡先、横浜市港北区篠原西町二五―五、横浜教育文化研究所内教闘交実行委事務局、電話〇四五―四三二―五二八九、〇四五―五〇二―二七七六（入江宅）

月刊労働者総合誌

新地平

4月号

六〇〇円

〈特別企画〉三里塚開港を阻止しよう！

これからがほんとうの闘いだ　戸村一作

防衛の闘いから攻撃の闘いへ　前田俊彦

空港に対峙する自分たちの農業を　島寛征

開港絶対阻止、ジェット燃料輸送粉砕！　動労千葉地方本部

特集◎横浜　"革新"市政――"飛鳥田の実験"をさぐる

上からの住民管理＝市民参加の実態　伊田伸／島満治ほか

開発優先、住民無視の飛鳥田市政　野上純興

飛鳥田―市労連一体となった労働者支配　吉沢裕之／村田清

飛鳥田市政と横浜社会党　中本弘

カーター政権の世界新秩序構想と背景　山川暁夫

在「韓」米地上軍の撤退と朝鮮半島　金昌永

協同組合の原則と現代の協同組合主義　林雅行

新連載　倒叙・戦後労働運動史　高島喜久男

新地平社　東京都新宿区百人町2―25―16―202

TEL・03（362）5803

定期購読　半年三六〇〇円　年間七二〇〇円（送料は当社負担）

郵便振替番号　東京三―一七二〇六八

映画案内

大人のノスタルジア「イーハトーブの赤い屋根」

「イーハトーブの赤い屋根」は岩手県の山奥の分校における若い夫婦教師（上条恒彦・丘みつ子）と子供達や村人との交流を描いている。映画は妻が分校に赴任してくるところからはじまる。汽車を降り、郵便局員の運転するバイクに乗せられいくつも山を越え、峠にさしかかると、はるか彼方の山あいに分校の赤い屋根が見える。その日の夜、村人達は歓迎の酒盛りを開いてくれる。翌日から妻の苦闘は始まる。4年生以下のクラスを受け持ち、彼女なりの教育技術で教育を施そうとするが全く通じない。また授業中でも電話のとりつぎ（村には学校にしか電話がない）とか村人が保険金を届けに来たりして更に彼女はとまどう。夕方になれば自分達の風呂は子供達に占領されようやく夜になって夫と話ができるかと思えば夫は村人と共に夜釣りに出かけると言う。遂に妻は泣きくずれ「はじめてこの分校の赤い屋根を見た時、宮沢賢治のイーハトーブ（理想郷）かと思った。でも実際に生活をしてみたら、二人のプライベシーすらないではないか。これではやっていけない」と夫に訴える。夫は「俺も最初はとまどった。しかし、あわてず、じっくり村人と子供達の生活の中に溶け込んでいく事だ」と教える。

ところが、この映画、見ている間はさわやかだが。観た後は少しも何も残らない。何か夢物語を見せられた様な気がする。中学生が友人を殺し、高校生が女の裸を一度見てみたがってマンションに押し入りナイフをつきつけた等という現実を聞かされると一層その感を深くする。

それは、最初は「農村と都市の違いだ。あんな田舎だから、あんな生活。あんな教育が成り立つ」と思った。しかし、どうもそうではない。この映画には教師の悩みは出てきたが、村人の生活の苦しみ、子供達の悩みは何も出て来ない。みんな天真らんまんで純朴でいい人なのだ。つまり観客はみんなイーハトーブを見せつけられたのである。観客のノスタルジアをくすぐり涙を誘ったのではないだろうか。この映画には三里塚での小川伸二や水俣のユージンスミスの持つ視点がない。スタッフの懐友人を殺し、高校生が女の裸を一度見てみたがってマンションに押し入りナイフをつきつけた等という現実を聞かされると一層その感を深くする。

それは、最初は「農村と都市の違いだ。あんな田舎だから、あんな生活。あんな教育が成り立つ」と思った。しかし、どうもそうではない。この映画には教師の悩みは出てきたが、村人の生活の苦しみ、子供達の悩みは何も出て来ない。みんな天真らんまんで純朴でいい人なのだ。つまり観客はみんなイーハトーブを見せつけられたのである。観客のノスタルジアをくすぐり涙を誘ったのではないだろうか。この映画には三里塚での小川伸二や水俣のユージンスミスの持つ視点がない。スタッフの懐

れが映像化されたに過ぎない。

九日付の朝日（朝刊）でこの映画がとりあげられていた。都会の四年生から六年生までの児童五百人に観賞してもらい感想を聞いたところ。そのほとんどが何らの感動を訴えなかったそうだ。返ってきたのは、「あんな汚ない校舎かなわん」「不便な生活やなあ」「あんな授業しとったらみんな落ちこぼれになってまうわ」と言った類である。子供は正直である。彼等が言う様にこの映画は、人物も含めて風景しか撮っていないからなのだ。その風景に感動するのは大人のノスタルジアであって、子供は自分の生活にもっと真剣に直面している。

三池の患者家族の会の主婦が「あの闘争の最中に育った子はみんないい子になってる」と呟いたことばが今でも忘れられない。教育ママの規準からいけば、母親が何日もブタ箱に放り込まれるなど「最低の教育環境」で育った子がである。しかし、三池の子供達は当時、自分達の父や母が光り輝いて見えたのであろう。それが教育だ。

この映画を生み出した力は、既成の映画会社の中にあっても失われない良心には違いない。しかしその良心が一編のメルヘンを作る事に向けられている。この良心や情緒性がもっと現実へと向けられるのも大きな意味での教育だろう。学校だけでなく社会にも教育が不在なのだ。

（K生）